

# 令和7年度 学 校 評 価 報 告

草加市立清門小学校

(令和8年1月22日作成)

<b>1 学校教育目標</b> なかよく (徳)・・・笑顔であいさつのできる子 かしこく (知)・・・進んで学習する子・確かな学力のある子 たくましく (体)・・・やりとげる子・きたえる子	
<b>2 重点目標・努力目標</b> (1) 50周年事業の充実 ・50周年集会、50周年清門まつり、50周年記念運動会 ・バルーンリリース、航空写真 ・各校務分掌で周年を意識した取組 (2) 「地球にやさしい子の育成」 ・SDGsの浸透(エコキャップ運動、総合的な学習の時間、エコ給食) ・ESDの実践 (3) 草加市教育委員会研究委嘱の推進 ・「自己肯定感・自己有用感・他者理解を育む授業づくり」 ・教師が楽しい研修 ・研究の日常化 (4) 健やかな体の育成 ・健康的な生活習慣 ・食育 ・体育的活動	<b>3 前年度の成果と課題</b> 成果 ○定期的に生徒指導部会、教育相談部会、いじめ防止対策委員会を開催し、諸課題の早期発見・早期解決、継続的な指導に努めた。市教育委員会、子育て支援センター等との連携、スクールソーシャルワーカーのいじめ防止対策委員会への招致、スクールカウンセラーの積極的な活用など、関係諸機関との連携を推進した。 ○学校行事を精選し児童の学びを充実させることができた。引き続き「児童の学びの保証」と「教職員の働き方改革」を両立させながら全教職員で取り組んでいく。 課題 ●担当教師により、児童間にICTの習熟の差が出ないように教職員のICT機器の使用について、組織的に行っていく必要がある。 ●全教職員が心身ともに健康で持続可能な教育活動の実施のため、働き方改革を進めて行く必要がある。

<b>4 評価表</b> ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○働き方改革と児童の学びの保障の両輪で学校運営が機能していた。 ●会議の短縮化を図る一方、教職員の共通理解・共通行動を更に徹底する必要がある。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○各個人の強みを生かした研究グループで教科指導研究を深められた。 ●各グループの研究内容を共有する場が少なく、独立したものとなっていた。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○危機管理マニュアルを全面改訂した。不審者対応避難訓練を3年ぶりに実施し、対応方法を確認した。 ●水筒の持ち歩き等安全面等で教職員の危機意識を更に高める必要がある。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○「個人情報持ち出し簿」が適切に活用されている。 ●児童のタブレットの扱い方について全校で確認したが、まだ徹底できていない部分が多く見られる。

<p>⑤地域との連携 開かれた学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校情報の発信</li> <li>・学校公開の実施</li> <li>・学校運営協議会の推進</li> <li>・地域、校種間連携</li> <li>・PTA活動の活性化</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎週末のメールマガジンで学校の様子を積極的に伝え、教育活動への関心を高めた。</li> <li>●学校運営協議会において、諸課題を熟議する場を充実させる必要がある。</li> </ul>
<p>⑥幼保小中を一貫した教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す子ども像の共有</li> <li>・15年間を通じたカリキュラムの編成</li> <li>・一貫教育推進のための組織づくり</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内陸上大会練習では、中学校の陸上部による指導が行われ、優秀な成績を収めることができた。</li> <li>○幼保小で交流を進め、来年度入学する園児に小学校入学に対する意欲を持たせることができた。</li> <li>●調整の際、行き違いが生じたことがあった。確認方法を見直す必要がある。</li> </ul>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>・教育計画の作成</li> <li>・教育活動の評価</li> <li>・目標、方針の周知</li> <li>・授業時数の配当、確保</li> </ul>	A	<p>○児童に身に付けさせたい力を確認しながら計画的に教育活動を進めることができた。</p> <p>●多様な働き方の観点を考慮しつつ持続可能な教育活動にしていかなければならない。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>・評価、評定の工夫</li> <li>・外部人材の活用</li> </ul>	B	<p>○年間指導計画に沿って、各教科の学習を滞りなく進めることができた。</p> <p>○学校応援団による学習支援協力を得て学習活動が充実した。</p> <p>●主体的・対話的・深い学びの視点に立っているのか、日々振り返りながら授業改善に努める必要がある。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画の作成</li> <li>・各教科との関連</li> <li>・道徳的実践力の育成</li> <li>・家庭、地域社会との連携</li> <li>・いのちの教育の推進</li> </ul>	B	<p>○「年間一公開道徳授業」「友だちの日」「人権週間」「障がい者の日の取組」など、学校全体で道徳教育を推進することができた。</p> <p>●日々の学校生活の中で道徳的実践力が見られるよう育成する必要がある。</p> <p>●家庭との連携という点では取り組みを見直す必要がある。</p>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・評価、評定の工夫</li> <li>・各教科、道徳教育との関連</li> <li>・中学校との連携</li> </ul>	A	<p>○担任とALTが授業プランに関する打合せを密に行い、授業では児童が主体的に活動する学習を展開している。児童の表現力が向上している。</p> <p>●世界の様々な国の文化に関心がもてるような授業展開や掲示物などの工夫を行っていく。</p>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・学級活動、学級経営</li> <li>・学校行事</li> <li>・児童会活動</li> </ul>	A	<p>○創立50周年に際して、児童主体の様々な取り組みが行われ、全校でお祝いをすることができた。</p> <p>○昨年度まで研究してきた「特別活動」を継続し、教員の指導力が更に向上することができた。</p> <p>●委員会活動やクラブ活動について、さらに児童が意欲的に活動できるよう、内容を見直していく必要がある。</p>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・指導内容の充実</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・評価の工夫</li> <li>・地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<p>○複数学年で外部指導者を招聘し、学習活動の充実を図ることができた。</p> <p>●教科横断的な学びが充実できるよう、更なる内容の精選・充実が必要である。</p>

⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な生徒指導</li> <li>・問題行動への対処</li> <li>・教育相談、児童理解</li> <li>・いじめ防止対策</li> <li>・保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	B	<p>○生徒指導部会では、校内の課題に対して迅速に対応することができている。</p> <p>○いじめ事案対応において、チームとして対応ができている。指導法で見直しがある場合は、積極的に再検証を行った。</p> <p>●SNS等ネットトラブルが散見された。タブレットの使い方を含め、情報モラルについて指導を強化する必要がある。</p>
⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の立案</li> <li>・指導内容の充実</li> <li>・中学校との連携</li> <li>・啓発的経験の充実</li> <li>・家庭、地域との連携強化</li> </ul>	B	<p>○キャリアパスポートについて、継続して取り組むことで、児童自身が自己の成長を振り返る機会となっている。</p> <p>●各教科・領域、特別活動との関連をさらに明確にしていく必要がある。</p>
⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画、支援計画</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・通常学級との交流</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・校内支援体制の整備</li> </ul>	A	<p>○特別支援学級では、個別の指導計画・支援計画に基づき、個に応じたきめ細かな指導・支援、教育がなされている。</p> <p>●通常学級に在籍する特別なニーズを要する児童への支援を充実させていく。</p>
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画、支援計画の作成</li> <li>・図書館補助員の活用</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・図書館の整備</li> <li>・図書館利用の工夫</li> </ul>	B	<p>○時期に合わせブックランチ読書や本に親しむための工夫を積極的に行っている。</p> <p>●クラス間で貸し出し数の差がある。教職員の意識改革を図りながら児童の読書意欲を高めたい。</p>
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育計画の作成</li> <li>・校内研修の充実</li> <li>・ICT機器の積極的な活用</li> <li>・情報モラル教育の推進</li> </ul>	B	<p>○効果的に情報機器を活用して、学習内容の共有、学びの深化に役立てられた。</p> <p>●児童に対する情報モラル教育、保護者に対する啓発が大きな課題である。</p>
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画の策定</li> <li>・各教科との関連</li> <li>・人権感覚の育成</li> <li>・校内研修の充実</li> </ul>	A	<p>○「人権週間」を中心に、全校で人権に関する教育が推進されている。</p> <p>○「マイクロアグレッション」について学ぶ機会があり、教職員の人権意識を高めることができた。</p> <p>●多様化する人権問題について、機をとりえて正しい理解と指導の充実を図っていく。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	SDGs・ESD	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間</li> <li>・エコキャップ運動</li> <li>・エコ給食</li> </ul>	A	<p>○SDGsに係る外部指導者を招聘し、総合的な学習の時間において、SDGsラジオや様々な企業とのコラボを通して、「今、自分ができること」を考えることができた。</p> <p>○エコキャップ運動を通して、地球規模の課題を自分事として捉えられた。</p> <p>●持続可能な社会の創り手を育成するために、より一層ホールスクールアプローチを展開していく必要がある。</p>
	体力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さわやかタイム</li> <li>・体力向上レベルアップカード</li> <li>・持久走の取組</li> <li>・サッカー大会</li> <li>・陸上大会練習</li> <li>・相撲教室</li> </ul>	A	<p>○相撲教室、陸上大会練習の取組では、各教職員が意欲的に指導を実施し、市内の大会においてもたいへん優秀な成績を収めることができた。</p> <p>○体育の授業では、場やルールの工夫を通して、児童の意欲・技能を高めることができた。</p> <p>●児童の体力低下を防ぐために、運動の機会を設ける工夫が必要である。</p>
	学校応援団	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援</li> <li>・環境整備</li> <li>・登下校の見守り</li> <li>・PTA活動</li> </ul>	A	<p>○学校応援団のシステムを見直し、募集と活用を充実させた。ミシン等学習補助や落ち葉掃き等の環境整備でご協力いただいた。保護者の学校評価記述でも高評価が見られた。</p> <p>○各町会、PTAと連携・協力した旗振り等を実施し、児童の登下校の安全確保を充実させている。</p> <p>●学習支援や環境整備が保護者にとどまっている。地域人財活用に向け、コーディネーターと話し合いの機会をもち実行していく。</p>

### 5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・創立50周年の節目の年に、教職員や児童が一丸となり、様々な行事を通して周年のお祝いを行うことができていた。中でも、児童主体の50thアニバーサリー児童集会では、全校児童が関わって誕生日ケーキを作成し、大盛況の会となった。
- ・定期的に生徒指導部会、教育相談部会、いじめ防止対策委員会を開催し、諸課題の早期発見・早期解決、継続的な指導を行っている。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、さわやか相談員と連携をとり、様々な窓口を設けることで多面的に対応ができた。
- ・「夢や希望を持ち、学び続ける子どもの育成～自己肯定感・自己有用感・他者理解を育む学級活動の工夫～」をテーマとし、各個人の強みを生かした指導法の研究を実施し、指導力向上につながった。
- ・「教職員の働き方改革」では、昨年度の超時間勤務時間を大幅に削減し、「児童の学びの保証」につなげることができた。しかし、時間削減の工夫はまだできそうである。
- ・授業時数の削減の中で学力向上、充実した学校生活が送れるよう、「これまでの当たり前」を見直し、教育活動の更なる充実につながるよう適宜アップデートする必要がある。
- ・教職員の異動も多いので、現在行われている学校運営を丁寧に見直し、学校の強みが持続可能な取り組みとして継続するよう見直す必要がある。

## 6 次年度の改善策

- ・次年度は新栄中校区の研究発表の年である。「幼保小中を一貫した教育」の研究を深化させ、地域全体で目指す子ども像を目指すため、「自己肯定感・自己有用感・他者理解を育む授業づくり」を土台として、学校課題研究を推進していく。
- ・学習規律を含め、様々な面で教職員の共通理解や共通行動の徹底が不十分である。着実に一つひとつの課題を見つめ直し、組織的に対応する。
- ・教職員の強みを生かした研修が充実できたが、研修過程の共有が十分にできなかった。研究グループの成果内容を可視化し、学校全体での指導力向上に努める。
- ・受け持つ学年により、教職員の負担感の差が出ないように、校務の調整をしていく必要がある。
- ・在校時間外勤務時間が昨年度に比べ、大きく減少した。次年度も全教職員が心身ともに健康で持続可能な教育活動の実施のため、働き方改革を進めて行く。